

3年理科 たねをまこう

番組名 「3年理科ふしぎがいっぱい」

放送回 第2回「たねのふしぎ」

普段見ることのできないような事象の映像を見ることができる。出演者が3年生の目線で疑問をもち、一緒に考えていくことのできる番組。

実践者 川崎市立富士見台小学校 教諭 黒田 俊介

番組の使い方

活用のねらい

植物の成長のイメージをもてない児童に対して、イメージをもたせ、そのきまりをみつけられるようにする。また、普段は見ることのできない土の中で起こる種が発芽していく様子を見ることで、その後の育ち方に対する期待や見通しをもたせる。

具体的な手立て

- ・発芽後に、種を蒔いてから発芽までにはどのように生長したのかを予想する
 - ・番組すべてを視聴(10分間)
 - ・意見交流をする
- 視聴前に種を蒔いてから発芽までの生長の様子を予想することで、視聴時に子どもたちが意識して視聴できるようにした。意見交流をすることで、観察と観察の間に起こっている変化に改めて目を向けられるように意識の共有をはかった。

授業の概要(3/4時間)

本時の目標

植物は、たねから発芽し子葉が出て、葉が増えながら生長することを理解する。

観察の振り返り

- ・発芽後かいた観察カードをもとに振り返りする。

発芽までの様子を予想する

- ・種を蒔いてから発芽するまでどのように生長したかを予想する。

番組視聴(10分)

- ・土の中ではどのような変化が起こっていたのかに目を向ける。

意見交流

- ・番組を見て思ったことや学んだことなどを全体で交流する。

まとめ

- ・種からは地面の外に子葉が出て、地面の中には根っこがのびていくことを確認する。
- ・目で見えていない、観察と観察の間にもいろいろな変化が起こっていることを確認する。

生き生きと学ぶ子どもの姿

初めて知る驚きから次の学習へ繋げる

「こんな風になってたんだ」など種から発芽までの生長を見ることで、観察と観察を結ぶ生長があることを意識し次の観察に生かしていた。

これからを期待するわくわく感を高める

「これからはこうなると思う」など、その後の育ちに対する期待や見通しをもつようになった。

共通の土台での意見交流

話し合いでは、お互いに気づいたことを嬉しそうに共有しようとしていた。

指導を終えて

初めて見た土の中にある種の成長の様子に驚き、地上に出ている芽が種から出ていることに興味をもって、確認することができた。また、観察と観察の間にも植物はいろいろな生長をしていることに気づき、次の観察ではその視点を生かして観察ができるようになった。

